

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	TAKE OFF			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実習に参加する目的を理解し、社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 就職活動の流れを知り、すぐに動き出せる準備をする。				
到達目標	現場で問題が起こった際、上司や教員と連携を取り、状況に応じて適切な対応をすることができる。 就職活動や実習中に、自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 就職活動に向けて自己分析を行い、自身の強みを分かりやすく相手に伝えることができる。				
評価基準	発表点40%、提出物30%、授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	インターンシップ実習Ⅰ、未来デザインプログラムⅠ、プレゼンテーションⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	飯塚 順平			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ実習①	年間スケジュールの確認、実習の目的を理解する。 実習先の決定方法について知る。
2	インターンシップ実習②	実習での心構えを学ぶ。 実習報告書、実務経験実績表の記入、提出方法を知る。
3	インターンシップ実習③	実習での心構え、マナーについて学ぶ。 先輩からのアドバイスを聞く。
4	社会人基礎力①	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
5	社会人基礎力②	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
6	社会人基礎力③	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
7	業界研究①	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。

8	業界研究②	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。
9	業界研究③	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。
10	業界研究④	将来の職種、就職活動、就職後の状況について発表する。
11	インターンシップ実習④	実習での経験を振り返り、発表をする。
12	インターンシップ実習⑤	実習での経験を振り返り、実習の目的の再確認する。
13	自己分析①	自分史を作成する。 ①エピソードを思い出す
14	自己分析②	自分史を作成する。 ②エピソードを分析する
15	自己分析③	自分史を作成する。 ②エピソードを分析する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	TAKE OFF			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実習に参加する目的を理解し、社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 就職活動の流れを知り、すぐに動き出せる準備をする。				
到達目標	現場で問題が起こった際、上司や教員と連携を取り、状況に応じて適切な対応をすることができる。 就職活動に必要な書類（履歴書・ジョブカード）が作成できる。 就職活動生としてふさわしい身だしなみが理解できている。 就職活動や実習中に、自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。				
評価基準	発表点40％、提出物30％、授業態度30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	インターンシップ実習Ⅰ、未来デザインプログラム、プレゼンテーション基礎				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	飯塚 順平			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動の流れ	就職活動の基本的な流れを知る。
2	身だしなみ指導	実習・就職における身だしなみの確認をする。
3	就職活動について① (履歴書作成)	履歴書の書き方を学ぶ。
4	就職活動について② (履歴書作成)	履歴書の書き方を学ぶ。
5	就職活動について③ (ジョブカード作成)	自己紹介文（ジョブカード）の作成方法について知る。
6	就職活動について④ (ジョブカード作成)	自己紹介文（ジョブカード）を作成する。
7	面接練習 ①	面接試験の種類（個人面接、集団面接）を知る。 面接試験の目的（面接で何を見られているか）を理解する。

8	面接練習 ②	面接試験の入退室の仕方を知る。 面接試験の回答を考える。※面接の実践は、プレゼンテーション基礎で行う
9	就職活動実践①	求人票の見方を学ぶ。 就職指導室の使い方（各校ルール）について知る。
10	企業研究①	気になる企業についてグループで調査する。
11	企業研究②	気になる企業についてグループで発表する。
12	企業研究③	自分の志望動機を作成する。
13	筆記試験対策	SPI、適性検査の内容を知り、勉強方法を理解する。
14	就職活動実践②	就職活動の具体的な計画を立てる。 (就職活動の方法の確認、春休みの動きの確認)
15	まとめ	1年間の振り返り、就職・実習の目標設定をする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	5	200
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者資格取得にあたり必要な実務経験を積む 実習を通して、登録販売者に必要な知識や技術を身に着ける				
到達目標	一緒に働く現場の店長やその他スタッフにとって、一緒に働きたいと求められる働きをする 販売員としての接客応対スキルを活かし、お客様応対がスムーズに出来る 一般用医薬品の知識を他者に説明する				
評価基準	企業側評価80%(事項別評価75点、総合評価5点)、学校側評価(レポート)20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者				
関連科目	就職活動対策Ⅰ・Ⅱ、シミュレーション販売				
備考	原則、現場での実習形式として実施する				
担当教員	飯塚 順平			実務経験	
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン基礎Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン基礎Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力ができるようになる。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。		
到達目標	10分間に350文字以上のスピードで文字を入力することができる。 ビジネス文書入力をスムーズにできる。 パソコン技能検定3級取得・2級レベルの操作ができる。		
評価基準	課題提出40％、小テスト30％、授業態度30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	パソコン技能検定3級(必須)、2級、準1級(任意)		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	大森 富士枝	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・概要・タッチタイピング	授業のねらい・年間の授業予定等説明・検定について Windowsの基礎操作・タッチタイピングの方法と必要性について
2	タッチタイピング Wordの基礎・基本入力	タッチタイピング（繰り返し練習・ホームポジション） 変換、文節区切りの変更、再変換、ファンクションキーについて
3	タッチタイピング・基本入力	タッチタイピング（繰り返し練習・上段） 記号と特殊文字、手書き入力、IMEパッドについて
4	タッチタイピング・基本編集	タッチタイピング（繰り返し練習・下段） フォント、フォントサイズ、文字修飾、コピー、貼り付けについて
5	タッチタイピング・入力練習	タッチタイピング（仕上げ） 教科書の入力問題実施
6	ビジネス文書の基本	入カスピード練習（10分） ビジネス文書の基本型と入力方法を学ぶ

7	表作成	入カスピード練習（10分） 表作成の操作説明について
8	文書作成①	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
9	文書作成②	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
10	テスト（Word）	学科問題・入力問題・文書作成問題の実施
11	Excelの概要・データ入力	入カスピード練習（10分） Excelの初期画面、基本データ入力、オートフィル機能、罫線、四則計算について
12	Excel基本復習、基本的な関数	入カスピード練習（10分） Excel基本の復習・SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照について
13	グラフ	入カスピード練習（10分） グラフの作成（棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ）・グラフ要素（タイトル、軸ラベル、凡例）について
14	テスト（Excel）	入カスピード練習（10分） Excelの確認テスト・表作成練習問題
15	パソコンの知識	学科問題に必要な知識について

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン基礎Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン基礎Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力ができるようになる。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。		
到達目標	10分間に350文字以上のスピードで文字を入力することができる。 ビジネス文書入力をスムーズにできる。 パソコン技能検定3級取得・2級レベルの操作ができる。		
評価基準	課題提出40％、小テスト30％、授業態度30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	パソコン技能検定3級(必須)、2級、準1級(任意)		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	大森 富士枝	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パソコン基礎Ⅰの復習	入カスピード練習 (10分) 文書作成問題・表計算問題
2	表作成練習①	入カスピード練習 (10分) 表作成問題練習
3	表作成練習②	入カスピード練習 (10分) 表作成問題練習
4	パソコン検定3級対策①	数式印刷の説明 入力問題、文書作成問題、表計算問題の練習
5	パソコン検定3級対策②	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
6	パソコン検定3級対策③	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題

7	パソコン検定3級対策④	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
8	Wordのいろいろな機能①	入カスピード練習（10分） 図形・ワードアート・画像使用について
9	Wordのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分・2級問題集使用） 段組み、ドロップキャップ、割注について
10	Wordのいろいろな機能③	入カスピード練習（10分） 文書作成練習
11	Excelのいろいろな関数④	入カスピード練習（10分） COUNT、RANK.EQ、ROUND、IFについて
12	Excelのいろいろな機能①	入カスピード練習（10分） 条件付き書式、複合グラフ、表作成問題について
13	Excelのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分） VLOOKUPについて
14	Excelのいろいろな機能③	入カスピード練習（10分） VLOOKUPについて
15	まとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	接客スキルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	接客スキルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	①サービス接客検定2級公式テキスト ②サービス接客検定1・2級実問題集 第46回～52回			出版社	①～②早稲田教育出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネスマナーの基本を習得し、サービス接遇を行うのに必要な知識と技能を身につける。 「お客様第一」で仕事をする意識を常に持ち続けることの大切さを理解する。		
到達目標	適切な敬語を使うことができる。 対人関係において必要な対人スキルを実践することができる。 状況に応じた対応（TPOに合わせた適切な行動・協調・臨機応変さ）ができる。		
評価基準	期末テスト50%、小テスト30%、授業態度（取り組み・参加姿勢と理解度）20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	サービス接遇実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定		
関連科目	接客スキルⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	田村 亜希子	実務経験	○
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務 主に接遇業務・スケジュールリング・会議資料作成などに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーについて	授業の流れや目的、到達目標について 実習先あいさつや就職活動をイメージしたお辞儀・立ち方・座り方・入退室を実践
2	サービス接客実務検定について	サービス接客実務検定2級・準1級の概要について
3	サービススタッフの資質① 敬語①	サービス業における必要な要件について 敬語について①
4	サービススタッフの資質② 敬語②	「お客さま第一」の考え方に基づく行動・態度について 敬語について②
5	専門知識① 敬語③	サービスの意義と役割意識について 敬語について③
6	専門知識② 敬語④	商業用語・経済用語について 敬語について④
7	一般知識① 敬語⑤	ことわざとその意味・慣用句・菓子の種類・物の数え方について 敬語について⑤

8	一般知識② 敬語⑥	時事用語について 敬語について⑥
9	対人技能①	人間関係の基本としての愛嬌や愛想・挨拶について 接客者としての礼儀に添った服装・言葉遣いや態度振る舞いについて
10	対人技能②	あらゆる場面での適切な接客用語について
11	実務技能①	お客さまの事情を考慮した対処の仕方と問題処理の基本について
12	実務技能②	店舗環境とお客さまをもてなすことについて 金品の管理・搬送の一連の行動や作業について
13	実務技能③	祝儀袋・不祝儀袋の表書きや水引の種類について お見舞い・お供え・贈り物の知識と慶弔時の服装について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	接客スキルⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	接客スキルⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	①サービス接客検定2級公式テキスト ②サービス接客検定1・2級実問題集 第46回～52回			出版社	①～②早稲田教育出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネスマナーの基本を習得し、サービス接遇を行うのに必要な知識と技能を身につける。 「お客様第一」で仕事をする意識を常に持ち続けることの大切さを理解する。		
到達目標	適切な敬語を使うことができる。 対人関係において必要な対人スキルを実践することができる。 状況に応じた対応（TPOに合わせた適切な行動・協調・臨機応変さ）ができる。		
評価基準	期末テスト50%、小テスト30%、授業態度（取り組み・参加姿勢と理解度）20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	サービス接遇実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定		
関連科目	接客スキルⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	田村 亜希子	実務経験	○
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務 主に接客業務・スケジュールリング・会議資料作成などに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 問題実践①	前期の復習、授業の流れや目的・到達目標について サービススタッフの資質について復習
2	問題実践②	専門知識・一般知識について復習
3	問題実践③	対人技能について復習
4	問題実践④	実務技能について復習
5	検定対策①	検定試験に向けた対策①
6	検定対策②	検定試験に向けた対策②
7	検定対策③	検定試験に向けた対策③

8	日本のしきたり	暦・月の別称・日本の祝日・年中行事や冠婚葬祭の種類とマナーについて
9	言葉遣い	相手への紹介の丁寧な言い方やお客さまに対しての丁寧な言い方について
10	一般常識	商業用語・経済用語・社会常識・時事用語・ことわざ・慣用句について
11	職場での対応	上司と部下、先輩と後輩、同僚間でのコミュニケーションについて
12	お客様対応	効果的な対応・愛嬌や愛想ある対応・気配りのある対応の対処について
13	電話対応	予約や問い合わせの受け方やクレーム対応と留守番電話対応について 電話の取り次ぎや伝言について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト、夢のスケッチブック			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する 他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる				
評価基準	授業態度40%、提出物40%、小テスト・レポート20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	就職活動対策Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	佐々木 亮太			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どのような状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

8	「SDGs」とは？	国際目標であるSDGsとは何か？ またそのゴールは何かを学び、自分できることを考える
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、スタプロで考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
12	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
13	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	成功するための原則	前期の総括とともに、あきらめないことの大切さを考えセルフモチベーションを高めていく

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する 他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる				
評価基準	授業態度40%、提出物40%、小テスト・レポート20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	就職活動対策Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	佐々木 亮太			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
2	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
3	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
4	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
5	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
6	過去の自分とこれからの人生	具体的なライフプラン・人生の目的/目標設定を考える
7	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える

8	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
9	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
10	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
11	X Yゲーム	ゲームを通じて未来デザインプログラムで学んだことを常に応用することは難しいということ学ぶ
12	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
13	後期の総括	後期の総括と2年生に向けてモチベーションを高めていく
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職や実習はもちろん、普段の学校生活におけるコミュニケーション能力を身に付ける 自己の意思・考えを分かり易く相手に伝える能力、相手の話を聞き主張できる能力を身に付ける 学生が業界・職種について自ら考え発表する機会を設けることで、業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージを明確化する				
到達目標	人前で自分の意思・考えを分かり易く話すことができる。 業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージが明確になっている。				
評価基準	発表70%、小テスト・提出物30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	就職活動対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	川谷 彩水			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プレゼンテーションとは	・傾聴とは ・アクティブリスニング
2	話す時の心構えと基本	・ビクチャーフィギュア ・思考力と表現力
3	表情（表現力）	・第一印象(メラビアンの法則) ・表情チェック ・即題スピーチ
4	思考力①	・思考力とは ・ストーリー構成の型 ・いろいろな立場
5	思考力②、表現力	・ストーリー構成の三原則 ・PREP法 ・show&tell
6	自己判断、自己分析	・思考力、表現力のセルフチェック ・改善点を知る
7	ディスカッション	・グループディスカッションの基本

8	業界・職種・仕事内容 研究①	・個人で調べ、まとめる
9	業界・職種・仕事内容 研究②	・グループ内で個人発表
10	業界・職種・仕事内容 研究③	・個人発表を基に、グループで調べまとめる
11	業界・職種・仕事内容 研究④	・個人発表を基に、グループで調べまとめる
12	業界・職種・仕事内容 研究⑤	・グループ毎で発表
13	発表の振り返り	・思考力、表現力について自己評価、他者評価を実施
14	振り返り	・内容の振り返り ・確認テスト
15	即題スピーチ 前期のまとめ	・長所、前期努力したこと等 ・前期のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職や実習はもちろん、普段の学校生活におけるコミュニケーション能力を身に付ける 自己の意思・考えを分かり易く相手に伝える能力、相手の話を聞き主張できる能力を身に付ける 学生が業界・職種について自ら考え発表する機会を設けることで、業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージを明確化する		
到達目標	就職活動や職場等で人前で発表できる。		
評価基準	発表70％、小テスト・提出物30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	就職活動対策Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	川谷 彩水	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自分自身を知る①	・4つの自分(ジョハリの窓) ・自己PR文作成
2	自分自身を知る②	・自己PR発表(動画撮影)
3	自己分析①	・自己分析の理解
4	自己分析②	・自己分析づくり
5	模擬面接	・模擬面接(ビデオ撮影)
6	発表の振り返り	・自己PR、模擬面接の振り返りを実施
7	実習・就職指導①	企業研究・模擬面接・グループディスカッション

8	実習・就職指導②	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
9	実習・就職指導③	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
10	実習・就職指導④	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
11	実習・就職指導⑤	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
12	実習・就職指導⑥	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
13	実習・就職指導⑦	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
14	実習・就職指導⑧	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
15	実習・就職指導⑨ 総まとめ	企業研究・模擬面接・グループディスカッション 総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬理学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	薬理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト 下巻			出版社	一般社団法人 日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者および一般用医薬品を扱う専門職が覚えるべき成分とその薬理作用を修得する。				
到達目標	主なOTCの成分名とその薬理作用、適応症を覚え、生活者に説明することができる。 主なOTCの成分の副作用や相互作用を覚え、生活者に正しい服用の仕方を伝えることができる。 登録販売者試験3章に出題される内容を理解し、試験に合格することができる。				
評価基準	理解度テスト50%、小テスト30%、授業態度その他20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者、動物用医薬品登録販売者、調剤事務検定				
関連科目	基礎医薬品Ⅰ・Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ、Ⅱ解剖生理学Ⅰ、Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 3-Ⅰ 精神神経に作用する薬	登録販売者試験のしくみ、授業の進め方、成績評価等に関する説明 1.かぜ薬
2	3-Ⅰ 精神神経に作用する薬	2.解熱鎮痛薬 3.眠気を促す薬
3	3-Ⅰ 精神神経に作用する薬	4.眠気を防ぐ薬 5.鎮暈薬 6.小児鎮静薬
4	3-Ⅱ 呼吸器官に作用する薬	1.鎮咳去痰薬
5	3-Ⅱ 呼吸器官に作用する薬	1.鎮咳去痰薬つづき 2.含嗽薬
6	第1回から第5回の振り返り	第1回から第5回で学んだ内容の総復習、理解度テストの実施および見直し
7	3-Ⅲ 胃腸に作用する薬	1.胃の薬 2.腸の薬

8	3-III 胃腸に作用する薬	3.胃腸鎮痛鎮痙薬 4.その他の消化器官用薬
9	3-IV 心臓などの器官や血液に作用する薬	1.強心薬 2.高コレステロール改善薬 3.貧血用薬
10	第7回から第9回の振り返り	第7回から第9回で学んだ内容の総復習、理解度テストの実施および見直し
11	3-V 排泄に関わる部位に作用する薬	1.痔の薬 2.その他の泌尿器用薬
12	3-VI 婦人薬	具体的な配合成分と作用の仕組み
13	3-VII 内服アレルギー用薬 3-VIII 鼻に用いる薬	具体的な配合成分と作用の仕組み
14	第11回から第13回の振り返り	第11回から第13回で学んだ内容の総復習、理解度テストの実施および見直し
15	総まとめ	薬理学Ⅰで学習した成分の総まとめ、過去問演習など

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬理学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	薬理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト 上巻・下巻			出版社	一般社団法人 日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者および一般用医薬品を扱う専門職が覚えるべき成分とその薬理作用を修得する。				
到達目標	主なOTCの成分名とその薬理作用、適応症を覚え、生活者に説明することができる。 主なOTCの成分の副作用や相互作用を覚え、生活者に正しい服用の仕方を伝えることができる。 医薬品の特性を正しく知り、副作用と疑われる事例などが発生した場合の適切な対応を生活者に伝えることができる。				
評価基準	理解度テスト50%、小テスト30%、授業態度その他20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者、動物用医薬品登録販売者、調剤事務検定				
関連科目	基礎医薬品Ⅰ・Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 3-IX 眼科用薬	登録販売者試験のしくみ、授業の進め方、成績評価等に関する説明 眼科で用いられる具体的な配合成分と作用の仕組み
2	3-X 皮膚に用いる薬	皮膚に用いられる具体的な配合成分と作用の仕組み
3	3-XI 歯や口中に用いる薬 3-XII 禁煙補助剤	1.歯痛・歯槽膿漏薬 2.口内炎用薬 喫煙とニコチン、禁煙補助剤の作用と副作用など
4	3-XⅢ 滋養強壮保健薬	保健薬、ビタミン、カルシウム、アミノ酸等
5	3-XⅣ 漢方・生薬製剤	漢方処方製剤、その他の生薬製剤
6	3-XⅤ 公衆衛生用薬 3-XⅥ 一般用検査薬	消毒薬、殺虫剤、忌避剤 尿糖・尿タンパク検査薬、妊娠検査薬
7	第1回から第6回の振り返り	第1回から第6回で学んだ成分の総復習、理解度テストの実施および見直し

8	1-Ⅰ 医薬品概論 1-Ⅱ 安全性と影響要因	医薬品の本質、リスク評価、健康食品 副作用、不適正な使用と有害事象、相互作用、小児・高齢者、プラセボ効果等
9	1-Ⅲ 適切な医薬品選択 1-Ⅳ 薬害の歴史	OTCで対処可能な症状等、販売時コミュニケーション 副作用の考え方、主な訴訟等
10	第8回から第9回の振り返り	第8回から第9回で学んだ内容の総復習、理解度テストの実施および見直し
11	5-Ⅰ 医薬品の適正使用情報	添付文書、製品表示、安全性情報、情報提供の活用
12	5-Ⅱ 医薬品の安全対策 5-Ⅲ 健康被害の救済	副作用情報等の収集、評価、措置 医薬品副作用被害救済制度
13	5-Ⅳ・Ⅴ 安全対策・啓発活動 使用上の注意	OTCに関する主な安全対策、適正使用のための啓発活動 使用上の注意の記載と対象となる成分
14	第11回から第13回の振り返り	第11回から第13回で学んだ内容の総復習、理解度テストの実施および見直し
15	総まとめ	薬理学Ⅰで学習した成分の総まとめ、過去問演習など

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎医薬品Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎医薬品Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	よくわかる一般用医薬品 第2刷 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト 下巻			出版社	薬事日報社 日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品を取り扱う専門家として一般用医薬品で使用されている成分の特徴・働き・副作用等の医薬品に対する専門的知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験第3章に対応できる知識を持つ				
評価基準	テスト40%、小テスト40%、AL20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者				
関連科目	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ、生薬・漢方学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	基礎医薬品に配合される各配合成分の役割について
2	精神神経に作用する薬	かぜ薬について
3	精神神経に作用する薬	解熱鎮痛薬について
4	精神神経に作用する薬	眠気を促す薬、眠気を防ぐ薬について
5	精神神経に作用する薬	鎮暈薬について 今までの確認テスト
6	呼吸器官に作用する薬	咳止め・痰を出しやすくする薬（鎮咳去痰薬）
7		口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）

8	胃腸に作用する薬	胃の薬（制酸薬、健胃薬、消化薬）
9	胃腸に作用する薬	腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬） 胃腸鎮痛鎮痙薬、その他の消化器官用薬
10	確認テスト	今までの復習
11	心臓などの器官や血液に作用する薬	強心薬、高コレステロール改善薬、貧血用薬（鉄製剤） その他の循環器用薬
12	排泄に関わる部位に作用する薬	痔の薬、その他の泌尿器用薬
13	婦人薬	婦人薬
14	復習＆テスト	今までの復習・テスト
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎医薬品Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎医薬品Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	よくわかる一般用医薬品 第2刷 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト 下巻			出版社	薬事日報社 日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品を取り扱う専門家として一般用医薬品で使用されている成分の特徴・働き・副作用等の医薬品に対する専門的知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験第3章に対応できる知識を持つ				
評価基準	テスト40%、小テスト40%、AL20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者				
関連科目	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ、生薬・漢方学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	振り返りと後期授業の進め方
2	内服アレルギー用薬	内服アレルギー用薬
3	鼻に用いる薬 眼科用薬	鼻に用いる薬 眼科用薬
4	皮膚に用いる薬	きず口等の殺菌消毒成分、痒み・腫れ・痛みを抑える配合成分、肌の角質化、かさつき等を改善する配合成分、抗菌作用を有する配合成分
5	皮膚に用いる薬	抗真菌作用を有する配合成分、頭皮・毛根に関する配合成分
6	歯や口中に用いる薬	歯痛・歯槽膿漏薬、口内炎用薬
7	禁煙補助剤 公衆衛生用薬	禁煙補助剤、 公衆衛生薬（消毒薬、殺虫剤、忌避剤）

8	一般用検査薬 小テスト	一般用検査薬とは、尿糖・尿タンパク検査薬、妊娠検査薬 小テスト
9	主な医薬品とその作用①	主な医薬品とその作用
10	主な医薬品とその作用②	主な医薬品とその作用
11	主な医薬品とその作用③	主な医薬品とその作用
12	主な医薬品とその作用④	主な医薬品とその作用
13	主な医薬品とその作用⑤	主な医薬品とその作用
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生薬・漢方学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	生薬・漢方学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	①登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 下巻 及び過去問題集 ②現代医療における漢方薬			出版社	①日本薬業研修センター ②南江堂

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験に合格するため最低必要な、漢方の特徴、代表的な漢方処方製剤、生薬成分の主な副作用、相互作用についての知識を身につける。		
到達目標	漢方について理解をし、症状に合わせた漢方薬を説明できる 様々な症状のお客さまに対しどの漢方薬が適切か理解することができる		
評価基準	テスト70%（半期に2回）、授業態度30%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上のもの		
関連資格	登録販売者資格試験		
関連科目	薬理学、基礎医薬品、薬事関係法規・制度、解剖生理学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	鶴見 健	実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 1) 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方 「証」とは
3	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 1) 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方 「陰陽」とは
4	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 2) 代表的な漢方処方製剤、適応となる症状・体質、主な副作用
5	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 3) 相互作用、受診勧奨 その他の生薬成分
6	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 かぜ薬 (漢方・生薬)
7	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 解熱鎮痛薬 (漢方・生薬)

8	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 眠気を促す成分 鎮うん薬（乗り物防止薬）
9	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）
10	3章主な医薬品とその作用 テスト	呼吸器官に作用する薬 生薬成分・漢方処方製剤 テスト(1回目)
11	3章主な医薬品とその作用	呼吸器官に作用する薬 生薬成分・漢方処方製剤
12	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
13	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
14	まとめ・テスト	テスト(2回目)学習した範囲の過去問題から出題
15	解説・振り返り	テストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生薬・漢方学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	生薬・漢方学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	①登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 下巻 及び過去問題集 ②現代医療における漢方薬			出版社	①日本薬業研修センター ②南江堂

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験に合格するため最低必要な、漢方の特徴、代表的な漢方処方製剤、生薬成分の主な副作用、相互作用についての知識を身につける。		
到達目標	漢方について理解をし、症状に合わせた漢方薬を説明できる 様々な症状のお客さまに対しどの漢方薬が適切か理解することができる		
評価基準	テスト70％（半期に2回）、授業態度30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上のもの		
関連資格	登録販売者資格試験		
関連科目	薬理学、基礎医薬品、薬事関係法規・制度、解剖生理学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	鶴見 健	実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（生薬成分）
2	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（生薬成分）
3	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（漢方処方製剤）
4	3章主な医薬品とその作用	心臓などの臓器や血液に作用する薬
5	3章主な医薬品とその作用	心臓などの臓器や血液に作用する薬
6	3章主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬 内用、外用痔疾用薬
7	3章主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬 泌尿器用薬

8	3章主な医薬品とその作用 テスト	婦人薬 テスト(1回目)
9	3章主な医薬品とその作用	内服アレルギー用薬
10	3章主な医薬品とその作用	皮膚に用いる薬・歯や口中に用いる薬
11	3章主な医薬品とその作用	滋養強壮保健薬
12	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
13	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
14	テスト(2回目)	学習した範囲の過去問題から出題
15	解説・振り返り	テストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬事関係法規・制度Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	薬事関係法規・制度Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	カラー図解よくわかる薬規法医薬品販売制度編			出版社	薬事日報社

科目の基礎情報②

授業のねらい	薬機法は、医薬品販売業や調剤薬局等、医薬品を扱う全ての業種において、その理解と遵守が求められる。また登録販売者試験の出題領域であるため、本法律を読み解く力を身に付ける。				
到達目標	登録販売者試験に出題されるポイントを理解し、問題演習（過去問題）を通じて試験の傾向を知る。 医薬品に関わる者として、必要な法知識を習得する。				
評価基準	定期試験50％（2回）、小テスト50％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬理学Ⅰ・Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、 資格試験対策Ⅰ・Ⅱ（2年前期）、医療品の安全対策と副作用（2年前期）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	薬機法第一条・第二条
2	第1章 医薬品の分類	1 医薬品の三つの分類
3	第1章 医薬品の分類	1 医薬品の三つの分類
4	第1章 医薬品の分類	2 一般用医薬品の三つの区分
5	第1章 医薬品の分類	3 医薬品の販売に従事する者 4 登録販売者制度
6	中間テスト	中間テスト
7	第2章 薬局と医薬品販売業	1 薬局と医薬品販売業

8	第2章 薬局と医薬品販売業	2 薬局
9	第2章 薬局と医薬品販売業	3 店舗販売業
10	第2章 薬局と医薬品販売業	4 配置販売業
11	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	1 薬局、医薬品販売業の業務管理、2 薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者の責務 3 医薬品の陳列、貯蔵の場所
12	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	4 情報提供、指導の場所、5 薬局、店舗販売業、配置販売業の業務体制 6 薬剤師、登録販売者、一般従事者の名札
13	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	7 薬局、店舗販売業、配置販売業に関する情報 8 医薬品の広告、9 障害を持つ勤務者に対する措置
14	期末テスト	期末テスト
15	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	栄養機能食品&まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬事関係法規・制度Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	薬事関係法規・制度Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	カラー図解よくわかる薬規法医薬品販売制度編			出版社	薬事日報社

科目の基礎情報②

授業のねらい	薬機法は、医薬品販売業や調剤薬局等、医薬品を扱う全ての業種において、その理解と遵守が求められる。また登録販売者試験の出題領域であるため、本法律を読み解く力を身に付ける。				
到達目標	登録販売者試験に出題されるポイントを理解し、問題演習（過去問題）を通じて試験を突破できる実力をつける。医薬品に関わる者として、卒業後あらゆる進路において業務に必要な法知識を習得する。				
評価基準	定期試験50％（2回）、小テスト50％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬理学Ⅰ・Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、資格試験対策Ⅰ・Ⅱ（2年前期）、医療品の安全対策と副作用（2年前期）薬事関係法規・制度Ⅰ（1年前期）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健			実務経験	○
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	1 医薬品の販売の方法 1) 薬局医薬品、要指導医薬品の販売方法
2	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	1 医薬品の販売の方法 2) 一般用医薬品の販売方法
3	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	2 医薬品の情報提供と指導の方法
4	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	3 調剤された薬剤の販売の方法
5	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	4 医薬品販売に関するその他の規制
6	中間テスト	中間テスト
7	第5章 特定販売	1 特定販売とは

8	第5章 特定販売	2 特定販売を行うには
9	第5章 特定販売	3 特定販売の方法、4 特定販売における情報提供 5 インターネットモール事業者の協力
10	第6章 医薬品の市販後安全 対策と添付文章	1 医薬品の安全性情報の収集、検討、提供
11	第6章 医薬品の市販後安全 対策と添付文章	1 医薬品の安全性情報の収集、検討、提供
12	第6章 医薬品の市販後安全 対策と添付文章	2 医薬品の表示と添付文書
13	第6章 医薬品の市販後安全 対策と添付文章	2 医薬品の表示と添付文書
14	期末テスト	期末テスト
15	薬機法のまとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	解剖生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 上巻 過去問題集			出版社	日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として必要な医学知識を身に付け、並行して主な疾患と薬との関係性を学ぶ。				
到達目標	解剖生理学（人体の仕組みと働き）を学び、薬の体への吸収・代謝・排泄を理解することができる。 医学知識と薬理学の大切さを知り、登録販売者への専門的な意識を高める。				
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者				
関連科目	薬理学Ⅰ・Ⅱ、基礎医薬品Ⅰ、生薬・漢方学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子			実務経験	○
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第2章 人体の構造と働き 人体の構造Ⅰ細胞	総論：解剖生理学とは何か、登録販売者として学ぶ理由・大切さを理解する。 人体の構造と働き：これから学ぶ解剖生理学の内容について知る。「細胞」から始まる人体の仕組みを知る。
2	人体の構造Ⅱ 消化器系①②	消化管・消化腺について、消化について：それぞれの名称を理解する。 口腔内の各部の名称と働きを理解する。唾液の消化酵素や咽頭について理解する。 胃、腸の各部の名称と消化器ルートを理解する。
3	消化器系③④	消化器系の働きについて：胆嚢と肝臓のはたらきについて理解する。大腸・肛門部周辺の名称を覚える。
4	消化器系のまとめ 人体の構造Ⅲ 呼吸器系①	消化器系ポイント1～7のまとめ。小テストを実施し、解説を受け理解を深める。 呼吸器系の働きについて：肺の解剖生理について理解する。
5	呼吸器系② 人体の構造Ⅳ 循環器系①	呼吸器系の働きについて：肺胞で行われるガス交換について理解する。 循環器系の働きについて：心臓の解剖生理について（心臓の構造）や血管（動脈、静脈、毛細血管）について理解する。
6	循環器系②③	循環器系の働きについて：全身を循環する血液の流れと、血液の組成について理解する。白血球と血小板の働きについて理解する。
7	循環器系④ 呼吸器系と循環器系のまとめ	循環器系の仕組み：血液と組織液・細胞の関係を理解する。 呼吸器系と循環器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け理解を深める。

8	人体の構造Ⅴ 泌尿器系①②	泌尿器系の働きについて：腎臓の中の構造を理解する。糸球体における濾過について理解する。 副腎の構造、分泌されるホルモンの働き（役割）を理解する
9	泌尿器系のまとめ 人体の構造Ⅵ 感覚器系①	泌尿器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け理解を深める。 感覚器系の働きについて：眼について各部の名称と働きを理解する。
10	感覚器系②③	感覚器系の働きについて：眼瞼（まぶた）、結膜、涙の通路、眼筋の働きを理解する。鼻腔と副鼻腔、耳の主な名称を理解する。
11	感覚器系④⑤	感覚器系の働きについて：耳（外耳・中耳・内耳）の構造、働きを理解する。皮膚の役割と構造について理解する。
12	感覚器系のまとめ 人体の構造Ⅶ 骨格・筋肉系①	感覚器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け、理解を深める。骨の中の各部の名称を覚え、構造を理解する。
13	骨格・筋肉系②③ 骨格・筋肉系のまとめ 人体の構造Ⅷ 神経系①	筋肉の働きについて：骨の役割を理解し、体の骨と体の筋肉の名称を覚える。筋組織の分類について理解する。 神経系の仕組みと働きについて：中枢神経と末梢神経について理解する。 神経系の仕組み：自律神経（交感神経と副交感神経）を理解する。
14	前期の総まとめテスト	まとめテストを実施する。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる
15	前期の総まとめ	前期内容のまとめテストを振り返り、解説を受け、理解を深める。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	解剖生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 上巻・下巻 過去問題集			出版社	日本薬業研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として必要な医学知識（主な疾患）と、病気に使用する薬の副作用の知識を身に着ける。		
到達目標	正しい医学知識のもとで、それぞれのお客様に的確なアドバイスが出来る。		
評価基準	テスト50％、小テスト30％、授業態度20％		
認定条件	出席が総時間の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	登録販売者		
関連科目	薬理学Ⅰ・Ⅱ、基礎医薬品Ⅰ・Ⅱ、生薬・漢方学Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	杉木 敦子	実務経験	○
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第2章 人体の働きと医薬品 薬が働く仕組み①	前期振り返り 総論：解剖生理学を踏まえた上で、薬の働く仕組みや副作用等、基本的な知識を学ぶ。 薬の作用について（全身作用と局所作用）、薬の各吸収部位と代謝について理解する。
2	薬が働く仕組み②③	体内で吸収された薬の代謝について詳しく理解する。 薬の作用や吸収、代謝について要点確認チェックを解いて、説明を聞き理解を深める。
3	薬が働く仕組み④ 薬が働く仕組みの まとめ小テスト	薬の種類（剤形）や、個体（人）に及ぼす影響について理解する。 薬が働く仕組み①～④までの小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。
4	症状からみた主な副作用①②	1) 全身的に現れる副作用について理解する。 ショック（アナフィラキシー）について症状や、原因となる主な薬を知る。
5	症状からみた主な副作用③④	皮膚粘膜障害について症状や、主な原因となる薬を知る。 肝機能障害について種類や症状、原因となる主な薬を知る。
6	症状からみた主な副作用⑤⑥	偽アルドステロン症について理解する。 病気に対する抵抗力低下の生理を理解する。
7	症状からみた主な副作用の まとめ小テスト1 症状からみた主な副作用⑦	副作用から見た副作用①～⑥までの小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。 2) 精神神経系に現れる副作用について理解する。精神神経障害について知る。

8	症状からみた主な副作用⑧⑨	3) 体の局所に現れる副作用について理解する。消化器系について知る。 その他：不適切な薬の長期連用について学ぶ。
9	症状からみた主な副作用⑩ 症状からみた主な副作用の まとめ小テスト2	3) 体の局所に現れる副作用について理解する。消化器系について知る。 症状から見た副作用⑦～⑩の小テストを実施し、解説を受け理解を深める。
10	症状からみた主な副作用⑪⑫	呼吸器系について知る。間質性肺炎、喘息について学び、使用する薬の副作用を理解する。 循環器系について知る。鬱血性心不全について学び、使用する薬の副作用を理解する。
11	症状からみた主な副作用の まとめ小テスト3 症状から見た主な副作用⑬	症状から見た副作用⑪～⑫の小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。 泌尿器系について知る。主な泌尿器疾患について学び、その使用する副作用を理解する。
12	症状からみた主な副作用⑭⑮	感覚器系について知る。緑内障について学び、その使用する薬の副作用を理解する。 皮膚に現れる副作用について知る。接触性皮膚炎、光線過敏症、薬疹について学び、その使用する薬の副作用を理解する。
13	症状からみた主な副作用⑯ 症状からみた主な副作用の まとめ小テスト4	外用薬の使用部位の症状について理解する。 症状から見た副作用⑬～⑯の小テストを実施し、解説を受け理解を深める。
14	後期の総まとめテスト	まとめテストを実施する。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる
15	後期総まとめ 過去問題集での演習	後期内容のまとめテストを振り返り、解説を受け、理解を深める。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	調剤薬局事務Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局事務Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	調剤事務講座 テキスト一式			出版社	日本医療事務協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割と主な調剤報酬算定業務の深い知識を習得する 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、調剤報酬算定以外にも対応できる知識を身につける				
到達目標	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割を述べることができる 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、ポイントを述べるができる 調剤薬局事務検定に合格することができる				
評価基準	評価テスト50%、小テスト30%、提出物・授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局事務Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松下 京子			実務経験	○
実務内容	民間の通学講座スクールにて医療事務・調剤事務・医事コンピュータ講師（8年） 職業訓練校にて医療事務・調剤事務講師（2年）・登録販売者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保険調剤	医療保険の仕組み（被保険者、被扶養者、保険医療機関、保険薬局の関係）、法別番号
2	保険調剤	保険調剤の仕組み、医薬分業について、処方箋の知識
3	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	処方箋の見方、調剤報酬点数表の構成、算定の原則、薬価計算（五捨五超入）
4	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	レセプトの記載方法（上書き）、調剤基本料、薬学管理料の算定とレセプトの作成
5	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	調剤料（内服薬）、計量混合調剤加算 ※処方箋問題集No.1～2
6	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	調剤料（屯服薬）、時間外加算 ※処方箋問題集No.3～4
7	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	一般名処方、調剤料（外用薬） ※処方箋問題集No.5～6

8	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	乳幼児、麻薬処方（麻薬加算、麻薬処方箋の取り扱い）、予製剤 ※処方箋問題集No.7～8
9	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	自家製剤加算、夜間・休日等加算 ※処方箋問題集No.9
10	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	乳幼児、休日加算 ※処方箋問題集No.10
11	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	漢方（浸煎薬・湯薬） ※処方箋問題集No.11～12
12	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	内服用滴剤、かかりつけ薬剤師指導料 ※処方箋問題集No.13～14
13	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	漸減療法 ※処方箋問題集No.15
14	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	隔日投与 ※処方箋問題集No.17
15	まとめ	調剤録、調剤レセプト作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	調剤薬局事務Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局事務Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	調剤事務講座 テキスト一式			出版社	日本医療事務協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割と主な調剤報酬算定業務の深い知識を習得する 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、調剤報酬算定以外にも対応できる知識を身につける				
到達目標	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割を述べることができる 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、ポイントを述べることができる 調剤薬局事務検定に合格することができる				
評価基準	模試50%、小テスト30%、提出物・授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局事務Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松下 京子			実務経験	○
実務内容	民間の通学講座スクールにて医療事務・調剤事務・医事コンピュータ講師（8年） 職業訓練校にて医療事務・調剤事務講師（2年）・登録販売者				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	前期復習 一包化加算※処方箋問題集No.18
2	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	一包化加算 ※処方箋問題集No.19
3	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	同日受付 ※処方箋問題集No.16・20
4	薬の基礎知識	薬物治療の概要、医薬品の開発、医薬品の名前、薬の体内動態
5	薬の基礎知識	薬の作用と適用、後発医薬品の普及促進の必要性について
6	1月の検定対策	調剤検定の概要、学科問題 ※模擬問題集
7	1月の検定対策（模試）	模擬問題

8	1月の検定対策（模試）	模擬問題
9	1月の検定対策（模試）	模擬問題
10	1月の検定対策（模試）	模擬問題
11	1月の検定対策（模試）	模擬問題
12	公費負担医療	公費負担医療の仕組みについて 医療法
13	公費負担医療適用の調剤報酬算定 レセプトの記載方法	生活保護
14	公費負担医療適用の調剤報酬算定 レセプトの記載方法	特定疾患、小児慢性特定疾患
15	総括	各自作成したレセプトを使用し総括を行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	調剤薬局概論		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局概論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	デキる薬剤師をつくる現場の教科書			出版社	株式会社じほう

科目の基礎情報②

授業のねらい	①調剤薬局での基本業務を理解する。②調剤薬局での薬剤師業務を理解する。③保険制度について理解する。				
到達目標	調剤薬局での調剤業務について説明ができる。 処方箋から必要事項を読み取ることができる。 かかりつけ薬局のメリットについて説明ができる。 ジェネリック医薬品について患者さまにわかりやすく説明ができる。 お薬手帳の活用や薬剤師の服薬指導について具体的に述べるができる。				
評価基準	定期試験60%、小テスト及びレポート20%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局事務ⅠⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子			実務経験	○
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	調剤薬局概論の流れと到達目標について
2	法規・制度・保険請求の常識①	医薬分業とかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師 医療保険と保険薬局
3	法規・制度・保険請求の常識②	調剤報酬の算定とレセプト 個人情報保護法と副作用報告
4	服薬指導の常識①	服薬指導とお薬手帳 お薬手帳と薬歴管理
5	服薬指導の常識②	ハイリスク薬について ここまでの振り返り
6	日常業務の常識①	調剤技術と在庫管理 処方箋と疑義照会
7	日常業務の常識②	一包化、粉碎、脱カプセル 麻薬の取り扱い

8	日常業務の常識③	ジェネリック医薬品って何？ 薬剤師が作成する薬歴って何？
9	日常業務の常識④	医薬品情報を調べる ヒヤリ・ハットと調剤過誤
10	服薬指導の常識③	薬の飲みやすさと服用の工夫 小児および高齢患者の服薬指導
11	コミュニケーションの常識①	ファーマシューティカルコミュニケーションと地域医療 クレーム対応術を習得、認知症の人との向き合い方
12	コミュニケーションの常識②	伝わる情報共有の秘訣と疑義照会 疑義照会とトレーシングレポート
13	在宅の常識①	在宅医療と患者宅・介護施設での薬剤師業務 バイタルサインとフィジカルアセスメント
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビューティーケア		
必修選択	選択	(学則表記)	ビューティーケア		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー	2	30
使用教材	日本化粧品検定 2級・3級対策テキスト 美肌検定の教科書			出版社	主婦の友社 マガジンハウス

科目の基礎情報②

授業のねらい	ドラッグストアで取り扱う化粧品等を説明、販売するための知識や技術を身に付ける。 3級の強制受験、2級の任意受験に対応する。 「シミュレーション販売」に繋がるロールプレイングを通して、使える知識として定着させる。				
到達目標	化粧品の種類、成分、使用方法や皮膚のメカニズムを理解し、人に説明できる。				
評価基準	テスト50%、3級検定20%、ロールプレイング20%、グループワーク・受講態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本化粧品検定3級（強制） 日本化粧品検定2級（任意） 美肌検定（任意） ナチュラルビューティスタイリスト検定（任意）				
関連科目	ビューティーケアⅡ・ヘルス&ビューティー・シミュレーション販売				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する 3級検定はwebから受験可能なため、カリキュラム終了後受験可能(無料) 2級検定希望者は、協会が定める11月27日開催日程・場所で受験可能(有料)				
担当教員	稲葉 裕子			実務経験	○
実務内容	コスメコンシェルジュインストラクター4年、ヘアメイクアーティスト22年歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・目的、到達目標の説明、美容部員について知る美容部員になるために 商品知識が販売力につながる メイクアップデモストOR販売ロープレデモスト実施
2	PART1. まちがえがちな美容知識をチェック	クレンジングの基本～洗顔の基本(P22～26)P55 皮膚表面の図 P59 皮脂膜 ●美肌検定の教科書 (P16&62～64)
3	PART1. まちがえがちな美容知識をチェック	化粧水の基礎知識～美容液について知る(P26～29)P55 皮膚表面の図 P59 皮脂膜 ●美肌検定の教科書 (P65～69)
4	PART2. 皮膚・肌について知ろう	1.皮膚の構造～2.皮膚のしくみと働き(皮膚表面の図)(P52～55) ●美肌検定の教科書 (P26～27)
5	PART2. 皮膚・肌について知ろう	○皮膚断面図テスト2.皮膚のしくみと働き～表皮の構造としくみ(P56～61) ●美肌検定の教科書 (P30～31)
6	PART2. 皮膚・肌について知ろう	2.皮膚のしくみと働き～表皮の構造としくみ (P56～61)
7	PART2. 皮膚・肌について知ろう	2.皮膚のしくみと働き～真皮のしくみ (P62～64) & (P31) ●美肌検定の教科書 (P30～33&49～53)

8	PART2. 皮膚・肌について知ろう	○テスト 2.皮膚のしくみと働き～皮膚の付属器官 3皮膚の機能 (P65～69)
9	PART3. 肌の手入れと正しい知識	1.肌タイプと見分け方～2.肌悩みの原因とお手入れ(乾燥)(P72～77) & (P32～35) & (P126～127) ●美肌検定の教科書 (P28～29 & 34～38 & 74～75 & 80～84)
10	PART3. 肌の手入れと正しい知識	2.肌悩みの原因とお手入れ(ニキビ・毛穴)(P78～83) & (P30) ●美肌検定の教科書 (P76～77)
11	PART3. 肌の手入れと正しい知識	2.肌悩みの原因とお手入れ(シミ)(P84～87) & (P58・120～125) & (P31・36～37) ●美肌検定の教科書 (P70～73)
12	PART3. 肌の手入れと正しい知識	2.肌悩みの原因とお手入れ(くすみ・くま) (P88～91) & (P58・120～125)
13	PART3. 肌の手入れと正しい知識	○テスト 2.肌悩みの原因とお手入れ(しわ・たるみ)(P92～93) & (P31)
14	PART1. まちがえがちな美容知識をチェック	3級受験に向けてメイクアップの基本・まつ毛ケア・ボディケア・手や爪のケア (P38～48) P55 皮膚表面の図 P59 皮脂膜●美肌検定の教科書 (P86～94)
15	3級受験	PART1.まちがえがちな美容知識をチェック 復習 スペシャルケア・頭皮マッサージ・ハンドケアなどお楽しみメニュー(P128～130)